

第1回
公共施設のあり方検討委員会
—明日のいなざわが輝くために—



平成23年11月17日
稲 沢 市



0

稲沢市の概要



1

歴史と緑のまち

- 平成17年4月1日に旧稲沢市、旧祖父江町、旧平和町が合併し、新しい「稲沢市」が誕生。
- 濃尾平野の中央に位置し、かつては尾張国の国府が置かれていた。
- 「自然の恵みと 心の豊かさ 人が輝く 文化創造都市」をスローガンに掲げる。

稲沢市

人口 138,519人
世帯数 50,936世帯
面積 79.30Km²

市長 大野紀明

観光と特産品



はだか祭



市の木 クロマツ
市の花 キク



桜ネックレス



ワイルドネイチャープラザ



いなっぴー



植木・苗木

ぎんなん



イラストマップ

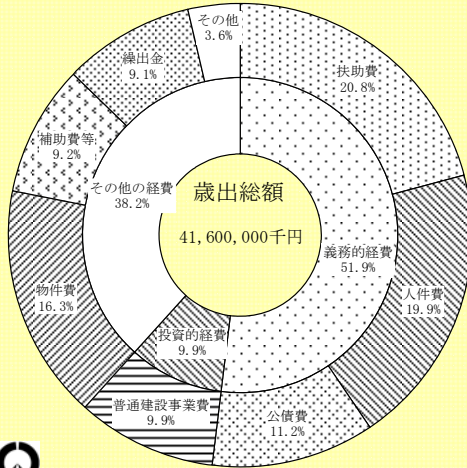


市の財政見通し



当初予算の内訳

図 歳出（性質別）の構成比



市の23年度当初予算の内訳を見ると・・・

人件費、扶助費などの義務的経費が全体の5割強、

さらに、補助費、繰出金が2割弱を占めており、

市の裁量で活用できる財源がかなり**限定**されていることがうかがえる。



6

市の財政見通し（1）



（単位：百万円）

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
歳入(予算)額	39,846	41,600	42,982	41,802	42,534	41,222	39,074
歳出(予算)額	39,846	41,600	42,982	44,310	44,089	43,640	40,473
うち一般財源	29,136	30,363	29,965	29,365	29,674	29,541	29,198
歳出超過額	0	0	0	△ 2,508	△ 1,555	△ 2,418	△ 1,399

市税や地方交付税などの一般財源は、23年度を基準にすると・・・

24年度から28年度の5年間で **40億7千万円** の減収が

見込まれる。



7

市の財政見通し（2）

計画上の試算では、

25年度から28年度の4年間で **78億8千万円** の
歳出超過が生じている。

今後、**歳出カット**と**新たな財源確保**の両面から、

歳出超過額を解消していく必要がある。



8

類似団体との比較



9

類似団体との比較

団体名	人口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (㎡)	21年度 歳出総額 (百万円)	うち 人件費 (百万円)	財政力 指数	職員数 (普通会計) (人)
稲沢市	135,028	48,405	79.30	43,804	8,234	1.02	927
瀬戸市	129,928	50,936	111.61	33,463	7,778	0.96	715
半田市	117,583	45,739	47.24	37,177	5,945	1.14	664
豊川市	180,003	65,653	160.63	57,048	10,133	1.01	1,098
刈谷市	141,242	57,312	50.45	57,742	7,118	1.59	836
安城市	174,305	64,283	86.01	57,976	8,503	1.49	942
旧西尾市	104,039	35,352	75.78	34,743	6,075	1.29	654
小牧市	145,039	57,238	62.82	51,997	8,505	1.47	948
東海市	106,831	43,791	43.36	43,506	7,345	1.59	768
類似団体平均	137,111	52,079	79.69	46,384	7,737	1.28	839

団体によって条件は若干異なるが、合併の影響で、稲沢市と豊川市の人件費、職員数が相対的に高くなっている。



10

部門別職員数の比較（1）

(単位:人)

団体名	総務・議会		税務	民生	保健・衛生		環境	農林水産
	うち住民サービス	うち保育所						
稲沢市	168	47	56	231	147	24	62	24
瀬戸市	141	56	45	172	105	23	46	3
半田市	91	22	36	270	179	18	34	8
豊川市	227	65	58	284	191	35	52	22
刈谷市	150	38	43	234	118	28	31	20
安城市	172	44	64	323	228	33	61	29
旧西尾市	105	20	36	185	125	30	36	16
小牧市	145	44	54	298	233	27	41	13
東海市	126	23	39	287	224	19	22	18
類似団体平均	147	40	48	254	172	26	43	17

総務、環境、農林水産部門が平均を上回っている。



11

部門別職員数の比較（２）

（単位：人）

団体名	商工・労働	土木・建築	教育	うち		消防	普通会計計
				小中学校	学校以外		
稲沢市	12	67	117	51	66	166	927
瀬戸市	32	62	65	35	30	126	715
半田市	9	46	152	17	135	-	664
豊川市	18	129	96	19	77	177	1,098
刈谷市	12	101	217	4	213	-	836
安城市	9	119	132	2	130	-	942
旧西尾市	8	44	86	32	54	108	654
小牧市	6	100	112	9	103	152	948
東海市	6	71	65	3	62	115	768
類似団体平均	12	82	116	19	97	141	839

消防部門が平均を上回っている。



12

公共施設の見直し



13

公共施設の見直し（1）

市は、
庁舎、市民センター、公民館、保育園、学校、社会福祉、保健、
環境、文化、スポーツ、産業観光、住宅、消防、病院など、
合わせて**190**の公共施設を保有。

これらの施設運営に充てられる税収等の一般財源額を合わせると、21年度決算ベースで**81億6千万円**となり、これは、市の普通会計の一般財源総額（289億6千万円）の**3割**に相当する。



14

公共施設の見直し（2）

前述の施設運営費に充てる一般財源額81億6千万円のうち、
人件費は**47億円**と**6割**を占める。

合併によって過大な施設を抱えているのが現状であり、
こうした**施設を根本から見直し**、固定経費をいかに抑制していく
かが、市にとって大きな課題となっている。



15

公共施設の建て替え問題

市が保有する**190**の公共施設のうち、
建築後**30年以上**経過したものは全体の**7割**を占める。

これらの施設をすべて建て替えた場合、
総額**1,000億円**に上る投資となり、
これは市の一般会計予算の**2.4倍**に相当する。

公共施設の見直しによって、
施設の総量を減らして建て替え費用を大幅に**圧縮**する
だけでなく、
サービス提供のあり方や管理形態そのものを見直すことで
新たな財源を**確保**し、
防災や少子高齢化などの諸課題に
これらの財源を**振り向けていく**ことが肝要である。



16

借地の状況

・190の公共施設のうち借地を有するものは**52施設**で、全体の
3割弱を占める。

・公共施設における借地の総面積は**24万2千㎡**。これらをすべて
買い取った場合の価額は総額**117億円**に上る。

・22年度の借地料は**2億8千万円**。借地料の支払いが、市にとって
重い負担となっている。



市民病院	40,477千円
稲沢中学校	33,611千円
稲沢西小学校	27,311千円
大里中学校	20,983千円
大里西小学校	17,227千円
平和中学校	13,803千円
大里東小学校	13,632千円



17

見直しの視点

見直し案の検討にあたっては、
以下の**3つの視点**からアプローチする。

- ① 将来の人口推計を見据えて考える
- ② 施設の総量を減らしていく方向で検討する
- ③ 市民サービスの水準を低下させないように配慮する



18

公共施設の 現状と課題



19

支所・市民センター



20

祖父江支所・平和支所（1）

現状



- ・祖父江支所 昭和46年建設 2階建 耐震未改修
- ・平和支所 昭和52年建設 3階建 耐震未改修

- ・平成17年の支所発足以後、段階的に体制を縮小しつつ、順次仕事を本庁に移管している。

	17年度	23年度
祖父江支所	正規49名 臨時4名	⇒ 正規18名 臨時5名
平和支所	正規40名 臨時7名	⇒ 正規13名 臨時6名

・主な業務

- ① まちづくり活動の支援
- ② 戸籍、住民票の発行などの窓口サービス
- ③ 市税、医療、福祉関係などの各種相談、届出
- ④ 地区内の道路、水路、公園などの維持管理
- ⑤ 土地改良区の運営指導



21

祖父江支所・平和支所（2）

課題

- ・耐震診断値は、いずれも市の基準未滿。概算の改修工事費はそれぞれ1億円。
- ・窓口での取り扱い件数
祖父江支所 年間24,100件 1世帯当たり3.3件
平和支所 年間15,000件 1世帯当たり3.4件
⇒ 年間数件しかない事務がいくつかあり、窓口対応で手間取ることがある。
- ・現金収納を行っているため、安全管理の面で心配な部分がある。
(祖父江支所 年間11,600件 ・ 平和支所 年間4,800件)
- ・祖父江支所、平和支所ともにエレベーターがなく、
バリアフリー化されていない。
- ・年間借地料
2支所合計 3,382千円



22

市民センター（1）

現状

- ・旧稲沢市内に7か所設置。いずれも直営施設。
明治、千代田、大里西、大里東、下津、小正、稲沢
- ・7施設のうち3施設が耐震診断未実施。残り4施設は耐震性有り。
- ・主な業務
 - ① まちづくり活動の支援
 - ② 戸籍、住民票の発行などの窓口サービス
 - ③ 公民館、老人福祉センターの
運営管理(併設の場合)
- ・職員数（7施設・公民館業務を含む）
正規21名 臨時13名 計34名



23

市民センター（2）

課題

- ・センターによって、窓口サービスの取扱件数にばらつきがある。
（年間6,800件～26,300件 1世帯当たり0.8件～3.7件）
- ・本庁にファクシミリ送信して承認を受けるなど、手間のかかる事務も多い。
- ・現金収納を行っているため、安全管理の面で心配な部分がある。
（年間900件～6,800件）
- ・7か所のセンターを抱えていることが、
県内の類似団体と比べて総務部門の
職員が多い一因となっている。



24

公民館



25

公民館

現状と課題

- ・旧稲沢市内に7か所。直営6施設、指定管理1施設。
明治、千代田、大里西、大里東、下津、稲沢東、稲沢 各公民館
- ・7施設のうち3施設が耐震診断未実施。残り4施設は耐震性有り。
- ・公民館活動団体として市が認定した団体については、月2回まで無料で公民館を利用できるが、同じメンバーが団体名と代表者名を変えて二重に登録するなどのケースが見受けられる。
- ・年間借地料
明治公民館始め2館
3,869千円



26

地域振興施設



27

平和町コミュニティ会館・下起ふれあい会館

現状と課題

・平和町コミュニティ会館

平成8年建設。直営施設。耐震性有り。
普段は無人で、利用も月2～3回程度に止まる。

・下起ふれあい会館

昭和48年建設。耐震性有り。
休園中の平和保育園を公民館として地元が管理しているが、一般には開放しておらず、市の公共施設と位置付ける理由が乏しい。

・年間借地料

2施設合計
2,786千円



28

保育園



29

保育園 (1)

現状

- ・市内に19園設置。いずれも直営施設。
- ・耐震改修促進法で努力義務が課せられている2階建て以上の保育園
⇒ 9園中1園が耐震未改修
- ・平屋建ての保育園
⇒ 10園中9園が耐震診断未実施
- ・年間借地料
国分保育園始め5園
8,217千円



30

保育園 (2)

課題

- ・定員割れの保育園 17園
- ・入所率が70%未満の保育園 11園



- ・給食は、旧稲沢市が自園調理方式、祖父江地区及び平和地区がセンター調理方式を採用。調理方式を含め、今後のあり方を市内部で検討中。



31

小学校



32

小学校 (1)

現状

- ・市内に23校設置。耐震化工事は23校中22校が完了。未改修は稲沢西小学校のみ。

- ・児童数・クラス数の推計

23年度	⇒	26年度	⇒	29年度
8,075人		7,640人		7,370人
303クラス		264クラス		258クラス

今後6年間で
705人(8.7%)の減少



- ・年間借地料
稲沢西小学校始め15校
111,314千円



33

小学校（2）

課題

- ・1学年1クラスのある学校

23年度 11校 52学年 ⇒ 26年度 11校 55学年 ⇒ 29年度 12校 61学年

- ・給食は、旧稲沢市が自校調理方式、祖父江地区及び平和地区がセンター調理方式を採用。調理方式を含め、今後のあり方を市内部で検討中。

- ・保護者の要望の多いトイレの改修に、23年度から順次着手している。



34

学校教育施設



35

学校給食センター

現状と課題

・祖父江町学校給食センター

平成元年建設。耐震性有り。1日2,600食を調理。最大供給能力は3,500食。

・平和町学校給食センター

昭和49年建設。耐震診断未実施。1日1,500食を調理。最大供給能力は2,000食。建築後38年経過し、施設の老朽化が著しい。

・職員数(2施設)

正規16名 臨時15名 県から派遣3名

・調理方式を含め、給食のあり方を
市内部で検討中。



36

社会福祉施設



37

社会福社会館

現状と課題

- ・昭和55年建設。身体障害者福祉センター、稲葉老人福祉センターあすなろ館、働く婦人の家、市社会福祉協議会本所を併設する複合施設。市社協に指定管理委託。
- ・耐震診断値は法の基準未満。概算の改修工事費は5千万円。
- ・建物2階に老人福祉センターのお風呂があるが、給排水設備の傷みから漏水している箇所がある。
- ・来館者が多く、恒常的に駐車場が不足している。



38

祖父江ふれあいの郷（1）

現状と課題

- ・昭和46年建設。耐震性有り。県老人ホーム木曾川荘の建物部分を旧祖父江町が譲り受け、平成16～17年度に改修し、天然温泉のお風呂を増築した。改修によって全体の内装はきれいになっているが、給排水などの根幹部分は建設当時のままのため、今後も修繕していく必要がある。
- ・民間企業に指定管理委託。

- ・年間借地料
544千円

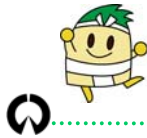


39

祖父江ふれあいの郷（2）

現状と課題

- ・お風呂の利用は、1日平均で平日500人、土日は630人。
- ・高齢者デイサービスは介護認定非該当の方を対象としているため、登録者は近隣の方21名に止まる。
- ・障害者デイサービスの登録者は40名で、市外の方が多い。



40

平和らくらくプラザ

現状と課題

- ・平成14年建設。耐震性有り。お風呂、プール、トレーニング室、娯楽室、会議室を備えた福祉施設で、さくら児童館、子育て支援センター、保健センター平和支所、市社会福祉協議会平和支所を併設。民間企業に指定管理委託。
- ・お風呂の利用は、1日平均300人。プールの利用は、1日平均100人。トレーニング室の利用は、1日平均35人。
- ・施設の規模が大きく、さらに温水浴施設であることから、毎年1億円以上のランニングコストがかかっている。
- ・年間借地料
4,570千円



41

老人福祉センター



42

老人福祉センター

現状と課題

- 市内に8か所設置。直営3施設、指定管理5施設。
8施設のうち1施設が耐震診断未実施で、2施設が耐震改修未実施。
残り5施設は耐震性有り。
- 市内在住の60歳以上の方は登録すると無料で利用できる。利用
目的は、会合、お風呂、グラウンドゴルフ、囲碁・将棋、カラオケ、
マッサージ、陶芸、盆栽、華道、ダンス、健康体操など。
- お風呂の利用は、1日平均1人から47人。
- お風呂に入浴中の事故が相次いでいる。
死亡事故は21年度2件、22年度1件。
それ以外にも、年に数回は救急搬送され
るケースがある。



43

児童センター等



44

児童館・児童クラブ（1）

現状と課題

- ・児童館（児童センター）
旧稲沢市内に10か所設置。直営施設。



- ・児童クラブ（学童保育）
小学校低学年（1年生から3年生まで）を対象。市内に17か所設置。
直営施設。



旧稲沢市内は児童センターに併設、
祖父江地区は学校の教室を活用、
平和地区は保育園の教室を活用、
または学校の敷地内にクラブ室を
建設している。



45

児童館・児童クラブ (2)

現状と課題

- ・児童センター、児童館、児童クラブ合わせた全19施設のうち、3施設が耐震診断未実施で、1施設が耐震改修未実施。残り15施設は耐震性有り。
- ・土曜日の利用は少なく、利用者がゼロになる児童クラブもある。
- ・23年度に稲沢北小学校の校庭に児童クラブ室を新設。24年4月から運用開始。
- ・年間借地料
大里オリーブ児童センター
始め2施設
2,674千円



46

子育て支援センター

現状と課題

- ・子育て支援総合相談センター
23年度に西町さざんか児童センター内に新設。
耐震性有り。臨時職員3名。
- ・子育て支援センター
平和らくらくプラザ内に設置。耐震性有り。
正規職員2名、臨時職員4名。
- ・市内3か所の保健センター、市内10か所の児童センター及び児童館、ひまわり園でも子育てに関する相談を受け付けており、それぞれ機能が重複する部分がある。



47

保健センター



48

保健センター

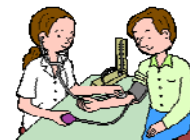
現状と課題

- 合併前の旧市町単位で市内に3か所設置。
いずれも直営施設。耐震性有り。

保健センター、保健センター祖父江支所、保健センター平和支所

- 職員数(3か所) 正規 26名 臨時 15名 計 41名

- 県内市町村で保健センターを複数抱える団体は、稲沢市始め11市町。大治町を除く10市町はいずれも合併団体で、合併によって複数の保健センターを抱えている。なお、北名古屋市は23年7月に2か所の保健センターを1か所に統合している。



49

文化施設



50

市民会館

現状と課題

- 平成7年建設。大中小3つのホールと会議室を備えた文化施設。市外からの来客や利用も多い。耐震性有り。稲沢市公共施設管理協会に指定管理委託。
- 大ホール4割、中ホール6割、小ホール7割の稼働率。土日はすべて予約で埋まる。各ホールともゆったり座れるように席数を減らして造られており、来場者の評価が高い。
- 舞台設備の更新などで、25年度から29年度の5年間で11億3千万円の整備費用がかかる見通し。



51

総合文化センター

現状と課題

- ・昭和50年建設。UR(都市再生機構)との共有で、1～3階が文化センター、4～13階がURの賃貸住宅となっている。平成22年に文化センター部分の耐震改修を実施。
- ・ホール、会議室等を備えた文化施設で、**小正市民センター**、**少年愛護センター**、**市民活動支援センター**を併設。直営施設。稼働率は5割程度。
- ・年間借地料 2,683千円



52

祖父江町郷土資料館

現状と課題

- ・旧祖父江町役場の建物を昭和62年に改修し、資料館としている。直営施設。耐震診断未実施。
- ・来館者は年間200人程度で、秋に開催する特別展に集中。
- ・年間借地料 1,179千円



53

図書館

現状と課題

・合併前の旧市町単位で市内に3か所設置。いずれも直営施設、耐震性有り。 中央図書館、祖父江の森図書館、平和町図書館

・職員数(3か所)
正規 13名 臨時 22名 計 35名



・平和町図書館は昭和61年建設。建物の2階部分が図書館で、1階部分は旧平和町保健センターだったが、平和らくらくプラザの開設に伴い保健センターが移設され、それ以降、空きスペースのままとなっている。エレベーターなし。

・年間借地料
平和町図書館 3,835千円



54

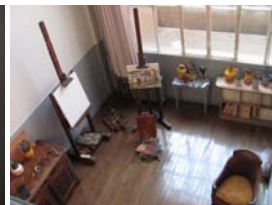
荻須記念美術館

現状と課題

・昭和58年建設。平成8年にアトリエ復元施設を増築。耐震性有り。

・正規職員4名、臨時職員2名。

・常設展の入場者は年間7,700人で、別に開催する年3回の企画展の入場者は7,200人。これ以外に、展示室の一部を年間150日ほど市民に開放しているが、申し込み多数で抽選待ちの状況。一般展示には年間30,800人の入場があり、来館者のアップにつながっている。



55

生涯学習施設



56

勤労福祉会館

現状と課題

- ・昭和53年建設。耐震改修工事実施済み。開館当初は結婚式場としての機能も有していた。
- ・稲沢市公共施設管理協会に指定管理委託。隣接の総合体育館と内部でつながっており、両方を一体で管理している。
- ・会議室及びホールの稼働率は4割程度。市関係の公用利用が多い。
- ・宿泊の稼働率は5割弱。ビジネス目的の固定客が大半。宿泊営業のために24時間常駐の警備が必要となり、コスト増の要因となっている。



57

稲沢勤労青少年ホーム・勤労青少年体育センター

現状と課題

- ・昭和46年建設。耐震診断未実施。民間企業に指定管理委託。
- ・ホーム全体の稼働率は2割、体育センター全体の稼働率は7割程度。ホームは公民館的な利用が多く、体育センターは個人の利用が多い。
- ・設置目的の「勤労青少年」の定義付けが、時代の変化と共に薄れている。他の生涯学習施設や体育館と利用者層に差異は見られず、高齢者の利用も多い。



58

祖父江町勤労青少年ホーム

現状と課題

- ・旧祖父江高校の校舎を昭和47年に改修。建設年は不明。施設の老朽化が著しく、耐震診断も未実施。直営施設で、道路向かいの祖父江町郷土資料館と合わせて管理している。
- ・職員数
正規 2名 臨時 4名 計 6名
- ・施設の目的が、設立当時の「勤労青少年」から祖父江地区の「公民館」としての位置付けに変わってきているが、団体の参加者が高齢化しており、全体の稼働率は2割程度に止まる。



59

平和町農村環境改善センター

現状と課題

- ・昭和59年建設。耐震性有り。民間企業に指定管理委託。
- ・平和地区の「公民館」としての位置付け。全体の稼働率は3割強。
- ・農事研修室、保健室、図書室などがあるが、今はすべて会議室として利用されている。利用者からも名称が分かりにくいという指摘を受けている。
- ・年間借地料 1,718千円



60

少年愛護センター

現状と課題

- ・総合文化センター内に設置。青少年自身の悩みや子育てに関する相談を電話で受け付け。
- ・職員数は臨時2名。
- ・相談件数は年間150件程度で、1日平均0.6件に止まる。



61

スポーツ施設



62

体育館

現状と課題

- ・市内に4か所設置。いずれも指定管理委託。
総合体育館、勤労青少年体育センター、祖父江町体育館、
平和町体育館
- ・総合体育館は耐震改修工事実施済みだが、祖父江町体育館及び
平和町体育館は耐震未改修、勤労青少年体育センターは耐震診断
未実施。概算の改修工事費は祖父江町体育館が2億円、平和町体
育館が1億円。
- ・アリーナの稼働率は、総合体育館が5割程度、
他の3館は8割強。
- ・年間借地料
平和町体育館 6,246千円



63

市営プール（1）

現状と課題

- ・市内に6か所設置。直営5施設、指定管理1施設。
治郎丸プール、明治プール、千代田プール、井之口プール
祖父江の森温水プール、平和町プール
- ・6施設のうち2施設が耐震診断未実施。
残り4施設は耐震性有り。



64

市営プール（2）

現状と課題

- ・祖父江の森温水プールは通年営業で、年間延べ60,000人が利用。それ以外の5施設は7月1日から8月31日までの期間営業で、利用者は期間中延べ4,000人から18,000人程度。
- ・治郎丸、明治、千代田、井之口の4施設は建設後25年以上経過し、老朽化が進んでいる。特に昭和47年建設の井之口プールは、給排水設備やろ過設備が限界に近づいており、全面改修が必要な時期にある。



65

学校開放プール

現状と課題

•以下の理由から、夏休み期間中の7月21日から8月31日まで一部の小学校のプールを一般開放している。

①西町プール廃止の代替措置

稲沢西小学校、稲沢北小学校、高御堂小学校、大塚小学校

②JR跨線橋の架け替え工事に伴う代替措置

下津小学校

•利用者は期間中延べ1,500人から2,500人程度。



•一般に開放しているものの、自校の児童の利用が大半で、他校の児童が利用することはほとんどない。



66

消防署



67

消防署

現状と課題

- ・市内に4か所設置。
消防本部・消防署、稲沢東分署、祖父江分署、平和分署
- ・本署及び稲沢東分署は耐震性有りだが、祖父江分署及び平和分署は耐震診断の結果、法の基準を満たさないことが判明。早急な対応が必要である。
- ・職員数（4施設）
正規 167名 臨時 2名
- ・4署体制を採っていることもあり、県内の類似団体と比べて消防部門の職員を多く抱えている。



68

行革以外の 検討テーマ



69

行革以外の視点から

公共施設のあり方検討においては、
行財政改革以外の視点から
施策の方向性や**施設の改善策**も併せて検討する。

検討テーマ

- ① 跡地・跡施設の活用
- ② 民間事業者との連携 など



70

第1回 公共施設のあり方検討委員会 —明日のいなざわが輝くために—



平成23年11月17日
稲 沢 市



71